

## 観光社会資本の事例

テーマ	札幌を代表するシンボル空間「大通」
【施設の状況写真】	
	
<p>東西約 1.5 kmに広がる都心のオアシス。四季を通じて行われる様々なイベントのメインステージとして利用されています。</p>	<p>歩道のフットライト、樹木のライトアップにより、明るさとともに、魅力的な夜の景観を演出しています。</p>
【施設の利用写真】	
	
<p>花壇には、四季折々の花が植えられ、市民や観光客の目を楽しませています。</p>	<p>大通納涼ガーデンは札幌の夏の風物詩。涼を求める多くの市民や観光客で賑わいます。</p>
【観光資源としての利用状況】	
<p>大通は、札幌市中心部の憩いの空間、観光名所として親しまれ、2月の雪まつり、5月のライラックまつり、6月のYOSAKOIソーラン祭り、7月～8月の夏まつり、11月～1月のホワイトイルミネーションなど、年間を通じて様々なイベントが行われ、広く市民や観光客に利用されています。</p>	

テーマ	札幌を代表するシンボル空間「大通」
<p>【社会資本の基礎データ】</p> <p>名称 大通</p> <p>所在地 北海道札幌市中央区大通西1丁目～西13丁目</p> <p>事業名 シンボルロード整備事業、公園事業</p> <p>事業主体 札幌市</p> <p>事業期間 昭和63年～平成7年</p>	
<p>【社会資本の役割・効果】</p> <p>大通は、北海道開拓の本府建設にあたり、札幌中心部を北の官庁街と南の住宅・商業街に分ける火防線として明治4年に設置されました。</p> <p>その後、札幌市の発展とともに、東西交通の幹線街路機能を担い、また近代西洋公園として整備されました。</p> <p>現在の大通は、南北大通の一般道路部と中央の公園部からなる都市計画道路であり、片側3車線の車道には、札幌中心部の幹線道路として1日に2万台(一方向)近い自動車が行き通っています。また、歩道は、ゆとりある歩行空間を確保することにより、快適性とバリアフリー性能を高めています。</p>	
<p>【位置図】</p> 	
<p>【関連ホームページ】 さっぽろ観光ガイド <a href="http://www.welcome.city.sapporo.jp/">http://www.welcome.city.sapporo.jp/</a></p>	